

設立趣旨書

日本がドイツと修好通商条約を締結して 150 余年。日独両国は、「永久の平和懇親あるべし」と定めた条文どおり、世界でも稀にみる友好関係を長期にわたって維持しています。

日本は医学、技術、音楽をはじめ多くの分野でドイツから学びました。第二次世界大戦で敗れた両国は「経済の奇跡」と呼ばれた急速な経済復興を果たし、古い歴史と文化を重んずる点もモノづくりが得意な点も共通していますが、地理的に遠く離れた日独両国が固い二国間関係を保っているのです。論理的思考や誠実さ、綿密な計画で物事を進める国民性と価値観を共有し、日独市民が草の根交流を続けることは両国の信頼関係を持続的に確かなものにするうえで有効かつ必要な手立てです。

私たちは、日独修好条約締結 150 周年を契機に、未来に向かってさらなる日本とドイツとの交流を図るため、2010 年 10 月に「横浜日独協会」を立ち上げました。

横浜日独協会ではこの間、多種多彩な会員を中心に幅広い分野で活動してきました。駐日ドイツ大使を招いての記念イベントの開催、会員で音楽家による音楽ライブ、EU という政治舞台で活躍した会員による講演会、日独の最先端技術をテーマにしたトークショー、あるいは実生活を通しての比較文化論等々。相互の親睦を深め、様々なジャンルにおいてセンスに刺激を与えた機会であり、ドイツの未知の側面を発見する新たな感動が生まれる場面も多々ありました。多種多様なニーズをもつ横浜市民が楽しみながら、新しい情報を吸収するとともに、ドイツへの情報発信という双方向の役割を担うことを目指してきました。

なかでも、グローバルな次世代育成のため、日独に関連したテーマに対する「高校生作文コンテスト」を実施し、入選者を隔年でドイツに短期派遣しホームステイをしながらドイツの同世代との交流を深め、若く多感な感覚で両国を見つめる機会をつくる事業を行っています。さらに、少し上の世代による「ヤングクラブ」を結成し、日独両国の大学や企業、地域などで活躍する学生や社会人十数人が集まり、またはインターネットで繋がっています。ヤングクラブが中心になり 2016 年 4 月、第 1 回目の日独ユースフォーラム横浜（横浜国際協力センター）を実施しました。横浜日独協会ではこれらを次世代育成の重要な事業と位置づけています。

また、当協会がおかれている地域社会の環境を考えると、文化・芸術・教育ならび産業経済分野における国際交流による活性化という観点から、ドイツを中心に欧州市場への進出を支援することを使命ともしています。今日では、ドイツが提唱しているインダストリー 4.0（第 4 次産業革命）は日独両国の中堅・中小企業の関係性がさらに進化・発展していく契機となっています。相互の得意分野をインターネットで繋ぎ共有化し、社会に大きな影響をあたえる理想的な技術革新をもたらします。中小企業が多い横浜市において、企業とともに地域住民が公共事業や安心・安全な社会づくりに直接参画し、社会活動していくことが活性化につながるのではないのでしょうか。

2012年7月、横浜日独協会はフランクフルト独日協会と協力協定を締結しました。環境保全分野での中小企業間の技術提携や、文化、教育、芸術あるいはスポーツ面で、多くの市民の情熱と積極的な国際交流事業への参加意識は、横浜市が国際感覚豊かな都市への進化が期待されていることの表れです。また、このような背景に鑑みて、高度な技術を有する日独が協力し、幅広い分野での各種の支援、協力、情報共有活動など、これまで培われてきた経験・活動を時代へ継承していくことは、健全な社会資産の形成にとっても極めて有意義なことです。

私たち横浜日独協会は、横浜市民はじめ関係者よりの信頼性を高め、市民及び市内在住のドイツ人に対して、日本とドイツの学術、文化、芸術、スポーツ、経済等に係る交流を通じ両国民の相互の理解を深め、市民による草の根の国際協力と、横浜市の発展に寄与することを目的に、特定非営利活動法人格を取得します。

2016年11月27日

法人の名称 特定非営利活動法人 横浜日独協会

設立代表者 早 瀬 勇